つぎの災害に備えるチービルディングワークショップを開催しました。（2012/12/05）

場所：東北大学医学部臨床講義棟ゼミナール室（宮城県仙台市）
テーマ：災害医療をどのように教育したらよいか

12 月 5 日（水）18:00－19:45 東北大学大学院医学系研究科の災害医学概論・特論の講義の一環として、つぎの災害に備えるチービルディングのためのワークショップを開催しました。学内にも開放し、大学院生のなかでも医師・看護師として臨床にも携わっている方々、大学院生以外の看護師、保健学科学生など 19 名が参加しました。

講義形式ではなく、ワークショップとすることによって、これまでに経験してきた震災の実体験、臨床的な力、災害医学の講義で得られた知識を総動員して参加型のグループワークを行い、時間内にプロダクトを作成するというものです。

まず、２人１組でこのワークショップを受講した理由をバズセッションで話し合ってもらうアイスブレークで参加者にリラックスしてもらいました。つづいて KJ 法を用いて、１．災害医療教育に対するニーズは何か、２．現在の問題点は何か、３．災害医療教育をどのようにしたらよいかという大変広範な問題の解決に取り組んでもらいました。KJ 法は、文殊カードと呼ばれるカードに思いつくままに災害医療に関する事項を書き、つぎの人に回して現場のさまざまな事項を徹底的に拾い上げます。カードは切り離されて類型化され、浮かび上がってきた問題点からプロダクトにまとめ上げる作業です。わずか１時間あまりのグループワークにしてはとても濃い内容でしたが、参加者はにぎやかに項目を書出し、とても立派なプロダクトを作成してくれました。３つのグループがそれぞれ３分間で発表し、２分間で質疑応答がなされました。実際に被災地で被災者なのに支援者にもならなくてはいけない医療従事者の心理にどう配慮したらよいのか、など東日本大震災の実体験に基づく質問がなされ、心理ケアを担当したことのある参加者から含蓄ある回答がなされる場面もありました。参加者が災害医療の教育について考え、参加者自身の行動変容を起こすよい機会になったと思われます。

活発なグループワーク

文殊カードと PowerPoint によるプレゼン

文責：江川新一（災害医学研究部門）、